

歌と手話に乗って...子供もお年寄りも

子供たちと一緒に手話コーラスの練習（狩場台児童館で）



ボランティア最前線

K S C手話コーラス同好会

サークルとしてはまだ新しいですが、人気のあるKSC手話コーラス同好会を訪ねてみました。この日（8月6日）は、西区狩場台児童館で月1回開かれている手話教室日。スタッフは代表の山下春美（福8）井上堅（福8）井上美津子（食11）北島輝子（福12）さん。さてその授業風景は？

出席は小2・小3の女子6人だけで、少しさびしい感じがしましたが、花火大会とお祭りがあったからでしょうね。この日の歌は「線路は続くよ」「翼をください」「七夕」「花火」「おじいさんの古時計」の5曲。子供たちに聞くと「まだ習い始めたばかり」とか「2年前から」との返事でしたが、子供たちもスタッフも熱中し、60分の授業ははあっという間に終わりました。

手話コーラスは、歌詞を手話で表します。眼で見る言葉と言ったらいいでしょうか。これに音楽がつくので、聴いていてもとても快いのですが、聴覚障害者には、メロディーやリズムが伝わらないのが残念です。「手話での会話はできませんが、片言英語のように単語を連ねることで意味は通じます。使っている（表現している）手話は、公式に使われているものですから」と北島さんが説明してくれました。

小学生は手話の基本を学ぶことで、高齢者は歌いながら手話の動作をすることで、楽しみながら

脳トレになるようです。手話を演じているスタッフ自身にとっても大きな生き甲斐になっていると思いました。

この同好会は、平成18年からグループわに所属しており、部員は42人。練習は、ひよどり保養センターの研修室で行っています。山下さんはKSCに在学中、手話歴20年の清原秋義さん（故人）に誘われてこのクラブを作りました。活動の場は広く、狩場台児童館をはじめ、高齢者介護施設、地域ふれあいセンター、学園祭、その他で年間30～40回になります。

教材を考え作成するのは井上堅さん。妻の美津子さんのパソコン技術が大いに役立ちます。高齢者対象の時は、昔の歌を採りあげ、その当時の話や映像も交え、音楽と手話でそれぞれ音楽療法を兼ねた情景になるそうです。やはりKSC在学中に手話に出合って、今も続けているのが北島さん。地域の婦人会や老人会に頼まれて教えています。「歌詞の暗記がひと苦労ですが、つらいとか止めようとか、思ったことは一度もありません」ときっぱり。がんばってくださいね。

*取材を終えて 秋のコンサートや発表会に向けて、子供たちもスタッフも懸命の練習が続きます。今度は、舞台上で元気よく演技する姿を見たいな...と思いました。

（取材と写真 広報・宮里寿子）